

香川県立保健医療大学概要 2025



C O N T E N T S

1 ▶	名称・沿革等	1～2
	(1) 名称	
	(2) 大学の構成	
	(3) 所在地	
	(4) 沿革	
2 ▶	組織図	3
3 ▶	基本理念・教育目標・3つのポリシー …	4～13
	(1) 基本理念	
	(2) 保健医療学部教育目標	
	(3) 看護学科の3つのポリシー	
	(4) 臨床検査学科の3つのポリシー	
	(5) 保健医療学研究科の目的	
	(6) 保健医療学研究科看護学専攻の3つのポリシー	
	(7) 保健医療学研究科臨床検査学専攻の3つのポリシー	
4 ▶	教育内容	14～21
	(1) 保健医療学部	
	①看護学科	
	②臨床検査学科	
	(2) 保健医療学研究科	
	(4) 実習施設	
	(5) 学年暦(学部・大学院)	
5 ▶	教職員の状況	22～26
	(1) 役職員	
	(2) 教職員数	
	(3) 教員の研究内容	
	(4) 教員の研究業績	
6 ▶	学生の状況	27～31
	(1) 入学者選抜試験及び入学者の状況	
	(2) 学部・大学院在学生の状況	
	(3) 出身県別学部学生数	
	(4) 令和7年3月卒業生・修了生の進路	
	(5) 国家試験の合格状況	
	(6) 奨学生の状況	
	(7) 学生相談	
	(8) 課外活動	
	①サークル活動	
	②その他	
7 ▶	図書館の状況	32
	(1) 運営状況	
	(2) 図書館資料の整備状況	
	(3) 利用状況	
8 ▶	地域との連携・広報・情報公開	33～35
	(1) 地域連携推進センター事業	
	(2) 公開講座	
	(3) 施設開放	
	(4) オープンキャンパス	
	(5) 高校等への出張講座	
	(6) 委員等への就任及び講師等の派遣	
	(7) 情報公開	
9 ▶	財務状況	36
	(1) 令和6年度 歳入歳出予算	
	(2) 外部資金の受け入れ状況	
10 ▶	施設の状況	37～38
	(1) 敷地面積	
	(2) 建物	
	(3) 建物配置図	



名称・沿革等

(1) 名称

香川県立保健医療大学 (平成16年4月開学)

(2) 大学の構成

【保健医療学部】

●看護学科

入学定員: 70人

卒業後に取得できる資格: 看護師国家試験受験資格

●臨床検査学科

入学定員: 20人

卒業後に取得できる資格: 臨床検査技師国家試験受験資格

在学中に取得できる資格: 健康食品管理士認定試験受験資格

(所定科目の履修者)

遺伝子分析科学認定士(初級) 認定試験受験資格

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格

【保健医療学研究科】

●看護学専攻(博士前期課程)

入学定員: 25人

・研究コース: 5人

・実践者養成コース(公衆衛生看護学): 10人

修了後に取得できる資格: 保健師国家試験受験資格

・実践者養成コース(助産学): 10人

修了後に取得できる資格: 助産師国家試験受験資格

受胎調節実地指導員(看護師資格を有する者)

新生児蘇生法講習会修了認定資格

●看護学専攻(博士後期課程)

入学定員: 2人

●臨床検査学専攻(博士前期課程)

入学定員: 3人

●臨床検査学専攻(博士後期課程)

入学定員: 2人

(3) 所在地

香川県高松市牟礼町原281番地1

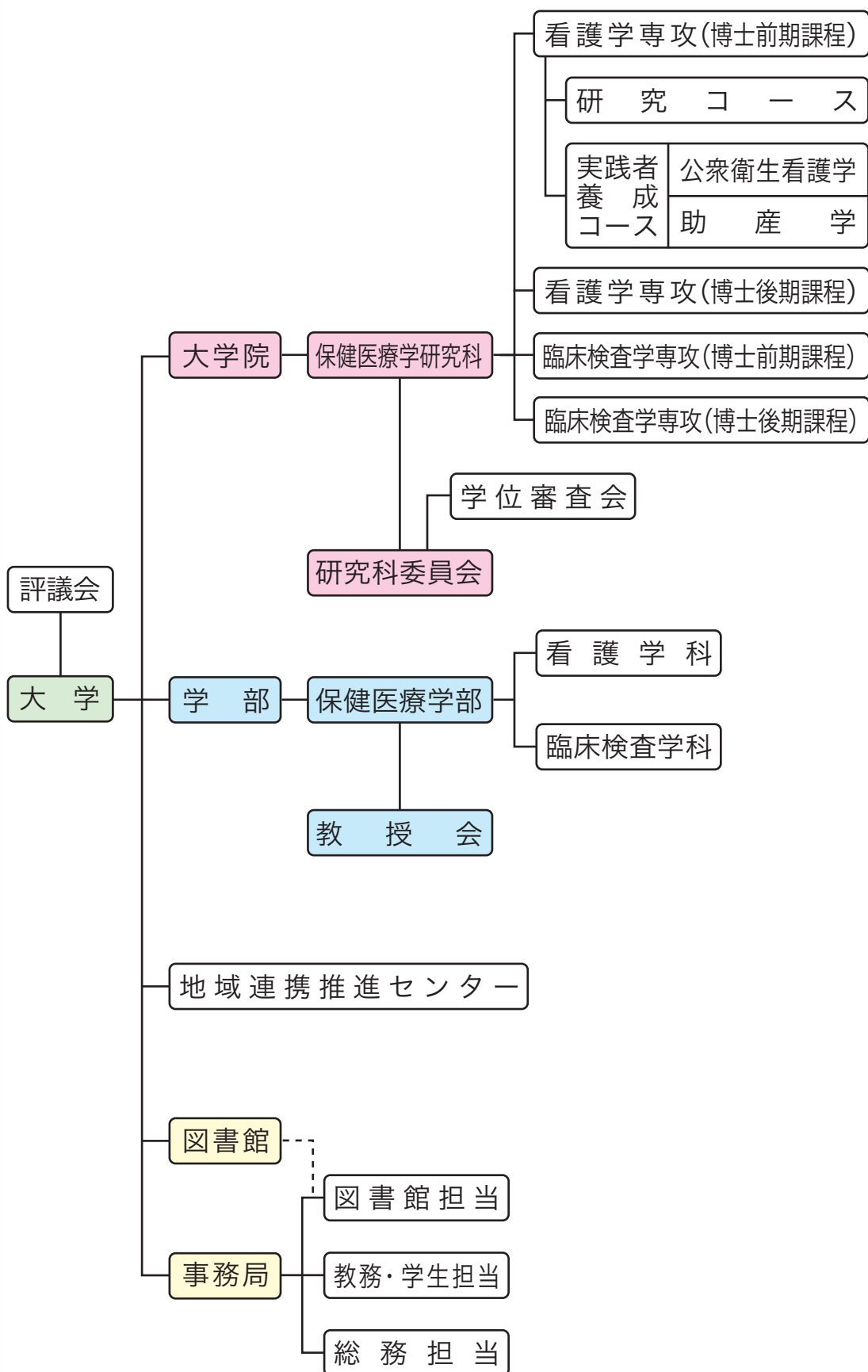
(4) 沿 革

①香川県立医療短期大学

- 平成 3年 3月 「香川県21世紀長期構想」事業計画で医療従事者の教育機関整備の検討を記述
- 平成 7年 4月 県立医療短期大学設立準備室設置
- 10月 県立医療短期大学整備基本構想策定協議会設置
- 平成 8年 2月 県立医療短期大学整備基本構想策定
- 12月 牟礼町原地区に設置決定
- 平成 9年 10月 建築工事起工式
- 12月 県立医療短期大学設置準備委員会設置
- 平成10年 4月 文部大臣へ県立医療短期大学設置認可申請
- 12月 文部大臣設置認可
- 県立医療短期大学設置条例公布
- 平成 11年 4月 県立医療短期大学開学（第1期生入学）
- 平成 14年 4月 県立医療短期大学専攻科設置
- 平成 19年 3月 県立医療短期大学閉学

②香川県立保健医療大学

- 平成 12年 6月 香川県新世紀基本構想で県立医療短期大学の4年制大学への移行について検討を記述
- 平成 13年 5月 香川県立医療短期大学4年制化検討委員会設置
- 11月 香川県立医療短期大学4年制化検討委員会提言
- 平成 14年 5月 大学設置基本構想策定委員会設置
- 11月 県立保健医療大学設置基本構想策定
- 県立大学設置準備委員会設置
- 平成 15年 4月 文部科学大臣に県立保健医療大学設置認可申請
- 11月 文部科学大臣設置認可
- 12月 香川県立保健医療大学設置条例公布
- 平成 16年 4月 県立保健医療大学開学（第1期生入学）
- 平成 20年 3月 県立保健医療大学第1期生卒業
- 平成 21年 4月 県立保健医療大学大学院保健医療学研究科（修士課程）設置
- 保健医療学部看護学科入学定員を50名から70名に増員
- 平成 23年 3月 大学院保健医療学研究科第1期生修了
- 4月 大学認証評価機関から「大学基準に適合している」との認定を受ける
- 地域連携推進センターを設置
- 平成 24年 4月 助産学専攻科を設置
- 看護学科学部教育に保健師選択制導入
- 看護学科3年次編入学制度の廃止
- 平成 25年 4月 大学院保健医療学研究科に専門看護師コース（精神看護）を設置
- 平成 29年 4月 大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）の学生募集停止
- 大学院保健医療学研究科に看護学専攻（修士課程）、臨床検査学専攻（博士前期課程）及び臨床検査学専攻（博士後期課程）を設置
- 平成 31年 4月 大学院保健医療学研究科に看護学専攻（博士前期課程）及び看護学専攻（博士後期課程）を設置
- 令和 2年 4月 看護師基礎教育の4年制を開始
- 令和 4年 4月 大学院保健医療学研究科看護学専攻博士前期課程に実践者養成コース（公衆衛生看護学）及び（助産学）を設置
- 令和 5年 3月 助産学専攻科廃止



(1) 基本理念

香川県立保健医療大学は、生命の尊厳を畏敬する深い人間愛を基盤として、教育、研究、地域貢献を推進します。

生涯にわたる知の探究と自己の能力を開発していく力を有し、地域の保健医療をリードする人材を育成します。

国際的視野を有し、保健医療の発展に寄与する先駆的研究を進めます。

地域のニーズに応える保健医療に関する情報発信や教育研究拠点として活動します。

これらを通じ、「県民に一目置かれる大学」として、人々の健康で心豊かな未来を拓きます。

(2) 保健医療学部教育目標

- 1 高い倫理観と教養を備えるとともに、深い人間愛に基づいて生命の尊厳を重んじることができ人間性豊かな人材を育成する。
- 2 看護学・臨床検査学に関する専門的知識・技術に基づいた総合的判断力を備え、実践することができる人材を育成する。
- 3 科学的思考力に基づいた豊かな創造性と探究心を持ち、生涯にわたり自らの能力の向上に努め、社会環境の変化や医療の高度化・多様化に適切に対応できる人材を育成する。
- 4 保健・医療・福祉における他の専門職と連携協働して、自らの役割と社会的使命を果たすことができる人材を育成する。
- 5 地域や国際社会の特性や問題を広い視野で理解し、多様な保健・医療・福祉の課題に適切に対応し、保健医療の向上に主体的に貢献できる人材を育成する。

(3) 看護学科の3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

看護学科では、以下に示された能力を卒業までに修得することを重視して成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認め、学士（看護学）の学位を授与する。

- 1 一人ひとりの人間を総合的に理解し、互いに成長し合える関係形成ができる基礎的能力を身に付けている。
- 2 人の尊厳と権利を擁護する看護について探究し、倫理的判断に基づいて行動できる基礎的能力を身に付けている。
- 3 看護の対象と状況を的確にアセスメントし、根拠に基づく看護が実践できる基礎的能力を身に付けている。
- 4 看護の実践・研究・教育の場で、将来、論理的に課題を探究し対応できる基礎的能力を身に付けている。
- 5 看護の対象を取り巻く保健・医療・福祉チーム員の役割を理解し、人々と連携協働しリーダーシップが発揮できる基礎的能力を身に付けている。
- 6 常に変化する社会に関心を寄せ、地域における看護の課題を探究し、新たな看護を創造できる基礎的能力を身に付けている。
- 7 看護を学ぶ自分と真摯に向き合い、看護専門職として誇りと責任をもって実践し成長し続ける基礎的能力を身に付けている。

②カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

看護学科では、ディプロマ・ポリシーの実現を目指して、以下の方針（考え方）でカリキュラムを編成する。

進級に関しては、各学年で定められた単位を修得する必要がある「進級制」を採用する。

- 1 看護学の学修が、基礎から応用および専門に向けて、段階的に積み上がるように科目編成するとともに、看護学周辺領域の学修が、看護学の学修に関連づけられるように科目を設定し配置する。

全科目は、＜基礎科目群＞と＜看護専門科目群＞に大きく区分する。

＜基礎科目群＞は、「自然」「人間」「社会」「情報」「外国語」「健康」に区分する。

＜看護専門科目群＞は、「看護学総論」「看護技術論・臨床推論」「看護過程論」「健康レベル別看護論」「発達段階別看護論」「メンタルヘルス看護論」「地域・在宅看護論」「看護発展論」「看護学実習」「看護ゼミナール・看護研究」に区分する。

- 2 看護実践能力が4年間で「基礎－応用－統合」と着実に獲得できるように看護学実習を配置する。

1年次前期から「看護学導入実習」（1週間）によって看護を学ぶ動機づけを図り、2年次修了までに看護実践能力の基礎形成が確実になるように「看護技術論実習」（2週間）と「看護過程論実習」（4週間）を配置する。

3年次は、対象と場の特性に応じて展開できる看護実践能力に発展させるために「発達段階別看護論実習」（母性、小児、老年を各2週間）と、「メンタルヘルス看護論実習」（2週間）「在宅看護学実習」（2週間）を配置する。

4年次は、これまでに獲得してきた知識・技術と経験を「健康レベル別看護論実習」（3週間）と「看護学総合実習」（3週間）に統合させる。

- 3 1年次から4年次までの看護学実習前後に演習を配置し、看護師が行う「臨床推論・臨床判断」について事例を使って学修し、他の演習および実習の学びと統合させながら「根拠に基づく基礎実践能力」の獲得につなげる。演習は、学年を超えた学生同士・教員・臨床看護師の構成で行い、「連携協働する能力」「成長し続ける能力」の獲得につなげる。
- 4 地域貢献への志向性を培うために、1年次から、地域包括ケアと看護の役割拡大への関心及び理解が段階的に深まるように科目設定を行い、3年次以降に、「連携協働する能力」と「地域の看護を創造する能力」に発展させる。さらに、学生が主体的に、県内外の地域で暮らす人々に対する健康ボランティア活動を計画して実施する「地域健康サポーター実習」を2年次～4年次の自由時間内で実践する。
- 5 学生の自律性と創造性が発揮できるように、自己学修、グループ討議、発表会など多様な学修形態を採り入れるとともに、個人およびグループによる学修時間が確保できるように科目時間数設定と時間割編成を行う。

また、1年次「看護ゼミナールⅠ」で課題探求能力の基礎作りを行い、3年次「看護ゼミナールⅡ」と、4年次「看護研究」の課題探求能力の発揮につなげるようにする。

③アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

- 1 科学的思考力を発展させる基礎学力を有している人
- 2 人間に関心があり、人との関わりに喜びを感じる人
- 3 状況判断ができ主体的に行動できる人
- 4 地域の看護実践の発展に貢献したい人

(4) 臨床検査学科の3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

臨床検査学科では、以下に示された能力を卒業までに修得することを重視して成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認め、学士（臨床検査学）の学位を授与する。

- 1 豊かな人間性と高い倫理観を身に付けている。
- 2 臨床検査に必要な専門的な知識・技術と実践能力を身に付けている。
- 3 臨床検査学発展のために、自らの能力の向上に努め、データ管理力や科学的思考力を用いて研究できる基礎的能力を身に付けている。
- 4 国際感覚を備え、臨床検査を通して、地域社会に広く貢献できる能力を身に付けている。
- 5 医療・環境・食品・保健分野などで、他職種と連携しながら、幅広く活躍できる能力を身に付けている。

②カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

臨床検査学科では、ディプロマ・ポリシーの実現を目指して、以下の方針（考え方）でカリキュラムを編成する。

進級に関しては、各学年で定められた単位を修得する必要がある「進級制」を採用する。

- 1 臨床検査学修の効率化を目指して、基礎科目群から臨床検査専門科目群へと積み上がる科目構成とする。また、臨床検査に関連する領域の学修も含め、社会において幅広く活躍できる能力も培える科目配置とする。

全科目は、＜基礎科目群＞と＜臨床検査専門科目群＞に大きく区分する。

＜基礎科目群＞は、「人文科学」、「社会・健康科学」、「自然科学」、「外国語」、「情報科学」、「健康科学」、「総合科目」及び「専門基礎」に細区分している。

＜臨床検査専門科目群＞は「分析検査学」、「形態検査学」、「検査情報解析検査学」、「総合検査学」、「臨地実習」に細区分している。

- 2 基礎科目群として、高い倫理観をもつ豊かな人間性を養うために哲学、倫理学などの人文科学系科目と、社会学、経済学などの社会科学系科目を配置し、さらに高等学校での学習内容を確認し、専門領域への橋渡しとする目的で、物理学、化学、生物学などの自然科学系科目と生理学、生化学などの専門基礎科目を配置する。また、情報化社会への対応のために検査データ管理に必要な情報科学を配置した。国際的視野を持って活動できる人材育成のため、英語と中国語を配置しており、特に、英語学習では、基礎英語、英会話、医療英語、文献などの読解力を養う。これらに加えて、地域の健康活動に貢献できる人材の養成を目指して、健康科学科目と教養講座・香川を配置する。さらに、専門基礎科目は、健康、疾病、病態を広く理解するとともに、人体の構造と機能を系統的に理解し、臨床検査についての専門知識、技術、医療チームとしての役割、他職種との連携を学修する目的で科目を構成し、医療機器の取り扱いに重要な医用電子工学・医用電子工学演習を配置している。また、国際的視野を広げるために国際保健論を設け、他職種との連携能力を修得するために、組織論と地域チーム医療論を配置している。
- 3 臨床検査専門科目群は、専門的知識・技術、科学的思考と研究能力を修得するため、検査結果や実験結果を総合的・多角的に判断分析、管理運営する基礎的能力及び検査技術を修得する目的で科目構成する。早期に学習への興味やモチベーションを高めることを目的として、検査学概論、臨床検査体験実習、臨床医学Iなどの科目を配置している。また、医療の高度化や安全管理・社会環境の変化に対応すべく、検診検査学、生殖補助

医療技術論、リスクマネジメント、健康食品学などの科目も履修可能であり、臨床検査技師の業務範囲の拡大内容についても修得できるように、医療安全管理学を中心に学内実習・演習を充実させている。

臨地実習は、臨地実習ガイドラインをもとに、実習施設との綿密なプログラム確認を行うことにより、総合的実践能力を高められる内容の科目編成とする。医療機関等で具体的・個別的に臨床検査業務や多職種連携業務等を実践することで、医療従事者として必要とされる倫理観や責任感の修得も目指す。一方、臨地実習前には、各領域の学内実習科目において臨地実習到達度評価を実施し、実習に必要な知識、技能や接遇能力を習得しているのかの確認を行い、臨地実習を行うことが可能な水準に達しているかの能力評価を行う。

さらに、卒業研究は、少人数制で実施することで、科学的思考力、研究能力、及びデータ管理能力が高められる指導を行う。また、所定科目履修者は在学中に、健康食品管理士、遺伝子分析科学認定士及び食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格取得が可能な科目体制を設けている。

③アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

- 1 論理的思考に必要な基礎学力を有している人
- 2 責任感と協調性があり、主体的に行動できる人
- 3 知的好奇心が旺盛で、科学的な観察力を持つ人
- 4 臨床検査技術を基盤に、地域の多様な分野で活躍したい人

(5) 保健医療学研究科の目的

人々の健康と自立の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人を育成することにより、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、高度な専門知識を持ち、新規かつ独創的な研究成果を発信する研究能力を持つ教育者・研究者を育成することにより、地域の保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与することを目的とする。

(6) 保健医療学研究科看護学専攻の3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（修了の認定に関する方針）

◆博士前期課程

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で修士論文（課題研究論文）を作成し、保健医療学研究科看護学専攻が行う修士論文（課題研究論文）の審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に修士（看護学）の学位を授与する。

【研究コース】

- 1 研究課題を探究し、研究目的に応じた方法を用いて成果を生み出す能力を有する。
- 2 看護の実践と研究において、倫理的判断と行動が遂行できる能力を有する。
- 3 専門領域の研究知見と看護実践の動向を把握し、批判的に検討し統合する能力を有する。
- 4 他者との討論を通して、自己と他者およびチームの成長につなげる能力を有する。

【実践者養成コース】

・公衆衛生看護学

- 1 地域における健康と QOL の向上及び社会の安寧に寄与することを使命とし、専門職業人としての責務を果たせる知識・技術・態度を生涯にわたり研鑽し続けるプロフェッショナルとしての能力を有する。
- 2 地域や地域住民を対象として包括的視点で的確にアセスメントとし、科学的根拠に基づいた公衆衛生看護実践ができる能力を有する。
- 3 公衆衛生看護学を探究するとともに、地域における実践課題を見出し、課題解決に向けて研究を遂行する能力を有する。
- 4 地域における健康と QOL の向上や地域社会の安寧を目指し関係機関・関係者と連携・協働体制を構築して地域社会の変革を推進する能力を有する。
- 5 急速に変化する社会状況に対して、保健師に求められる役割を認識し、地域社会の発展に寄与できる能力を有する。

・助産学

- 1 助産師としての高い倫理観を持ち、高度な専門職として対象者のニーズに対して応答できる能力を有する。
- 2 安全で対象者に満足のいく助産ケアの提供のために、科学的根拠に基づいた自律した助産実践を行う能力を有する。
- 3 助産実践を変革させるうえでの課題を見出し、解決に向けて研究を遂行する能力を有する。
- 4 助産学領域の実践上の課題に向けてマネジメント力を発揮し、組織および多職種と連携・協働できる能力を有する。
- 5 社会の動向を踏まえ地域の母子保健活動を推進するために、全ての女性、乳幼児、家族の健康増進に向けて支援できる能力を有する。

◆博士後期課程

看護学専攻博士後期課程に3年以上在籍し、専門共通科目（必修）6単位、専門科目（選択）2単位、演習科目（必修）2単位、特別研究科目（必修）6単位の合計16単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することとし、加えて、博士論文に関する副論文1編を、査読制度のある学術雑誌に単著又は共著筆頭の原著論文、研究報告、総説のいずれかとして発表すること（印刷中の論文については、その旨を記入し、アクセプトされたことが分かる証明書を添付する）とする。これらの要件を全て満たす者に博士（看護学）の学位を授与する。

単位認定および論文審査にあたっては、以下の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づいて厳格かつ適切な評価を行う。

- 1 専門領域における独創的な研究を行い、新たな看護の知を創造する能力を有する。
- 2 科学的考察や議論を深めて、新たな看護の見解を論述する能力を有する。
- 3 自らの研究について、その真価を問うために社会に発信する能力を有する。

②カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

◆博士前期課程

【研究コース】

専門共通科目16単位以上（必修6単位、選択10単位以上）と専門領域科目4単位以上、特別研究10単位で編成する。

専門共通科目は、広い視野で看護実践やその課題を捉えられる看護研究の基盤となる12科目「先端医学論」「チーム医療特論」「保健統計学特論」「生命・医療倫理論」「英文作成概論」「看護理論」「看護と哲学」「質的研究方法論」「量的研究方法論」「地域包括ケア特論」「看護政策特論」「看護教育学特論」を配置する。

専門領域科目は、看護実践の探求と基礎的研究能力を育成するために各専門領域において「特論」「演習」「特別研究」を配置する。

専門領域は、「基盤開発看護学領域」「地域看護学領域」「精神保健看護学領域」「療養支援看護学領域」「次世代育成看護学領域」の5領域で構成し、看護実践の質の向上と変革をめざす。

- 1 基盤開発看護学領域では、あらゆる看護の対象と場における共通基盤である「看護専門職として成長・発展」および「エビデンスに基づく看護」について探求する。
- 2 地域看護学領域では、地域における今日的課題を考察すると共に、地域で生活する個人・家族・集団および地域を対象とした看護実践において、生活の質の向上に貢献できる看護実践力や方策を探求する。
- 3 精神保健看護学領域では、メンタルヘルスに健康問題を持つ本人と家族を取り巻く人々が、その人らしい生活が生き生きと送れ、生活の質の向上を支援する看護実践を探求する。
- 4 療養支援看護学領域では、疾患や加齢により療養しているあらゆる健康レベルの本人や家族を対象として、臨床における対象者の生活の質を高める看護実践・開発を探求する。
- 5 次世代育成看護学領域では、次世代を育成する看護の観点から、周産期の妊産褥婦を含め広く女性を対象とした健康支援や子どもや家族の発達支援を探求する。

特別研究は、研究課題となる専門領域科目の特論と演習における学習に連動した研究を遂行し、専門性を深く探求した修士論文を完成とする。

【実践者養成コース】

・公衆衛生看護学

(1) 公衆衛生看護実践能力の育成（基礎—応用）

個人、家族、集団、地域の関連を理解し、理論と実践を連動する公衆衛生看護実践力を育成する。個別の健康課題から集団の健康課題、地域の健康課題へと視点を個別から集団、地域へと拡大するとともに包括的アセスメントが根拠に基づいてできる公衆衛生看護実践力が身につくように、4種類の実習を段階的に配置する。

- ①1年前期に公衆衛生看護実践能力の基礎となる知識・技術・態度を学修し、それを応用して実践力を身に付けるために「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」を1年次後期に配置し、地域診断と公衆衛生看護展開過程を学ぶ。
- ②1年後期から2年前期にかけて、「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」が終了した後、「地域包括ケア実習Ⅰ」を配置し、乳児のいる世帯1例を受け持ち自律した個別支援能力を身に付け、個別支援から家族支援さらに地域づくりへと発展する過程を学修する。1年間継続した訪問実習することで関係形成や個別のマネジメント、更に地域マネジメントへの展開について段階的に実践力を身につける。
- ③2年前期に「地域包括ケア実習Ⅱ」を配置し、これまでの実習経験を活かし（応用）、小豆島をフィールドとして、地域特性を把握した上で健康危機管理を視点として地域診断を行い、地域住民が安心して暮らせる地域を目指し、既存の地域包括ケアシステムを再検討し、関係機関や関係者と連携、協働するマネジメントの実際を学ぶ。

(2) 研究力（研究的思考・手法）の育成（基礎—応用）

- ①1年前期に、看護研究の基礎となる科目を学習し、研究的思考、手法を理解する。

②1年後期に基礎的知識を「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」または「地域包括ケア実習Ⅰ」の実習において応用し公衆衛生看護実践の課題を探究する。

(3) 公衆衛生看護実践と研究的思考・手法の統合(統合)

①公衆衛生看護学特論。演習において「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」や「地域包括ケア実習Ⅰ」での公衆衛生看護実践の課題を探究し、研究的思考・手法を活用して実践の課題を研究課題へと洗練し、2年前期に研究計画書を作成する。

②研究計画書に基づいて、データ収集し分析する課題研究過程を学修し、その結果から公衆衛生看護実践(実習)上の課題解決に反映する研究過程を学習し、実践と研究を統合した成果として課題研究論文を作成する。

・助産学

助産学では、責務遂行能力、助産実践能力、課題探求解決能力、連携・協働力、地域貢献力を修得できるように課題研究科目、専門共通科目、専門領域科目(実践コース共通科目を含む)に加えて、助産師国家試験受験資格取得に必要な科目を以下のような共通方針に基づいて配置している。

- (1) 助産実践上の知識、技術、専門職としての態度の修得レベルをあげるため、ローリスク妊婦ケアと10例以上の正常分娩介助後、経験した事例をもとにシナリオを作成し、徹底したシミュレーション学習を行う。
- (2) 周産期の臨床思考を身につけるために段階的に助産実践能力の客観的評価を実施する。知識、技術、態度の目標到達レベルの確認のために実習前:助産実践能力の客観的評価と実習後:助産実践能力の客観的評価および修了前:助産実践能力の客観的評価を行う。
- (3) 妊娠・分娩・産褥・育児期を継続して支援する能力を養うため、1年次から実習を設置し、継続事例のうち1例は1年間受け持つ。
- (4) 高度な周産期母子医療に対応した実践能力を修得するために、ハイリスク妊産褥婦ケアを含めた特論や演習科目を強化する。
- (5) 研究科における研究方法論(量的研究・質的研究)や看護理論、英論文作成概論等を1年次から履修できるようにし、研究を行うための基礎的知識を活用し、仮説を構築、検証することや、実践上の課題を解決できるようにする。
- (6) 公衆衛生看護学との合同科目の履修により、課題探究、多職種連携・協働についての実践を学ぶことができるようにする。
- (7) 香川県の課題を把握するため、香川県全域で実習を行い、地域包括医療・ケアについて学ぶ機会をつくる。

◆博士後期課程

以下の4項目を教育方針(カリキュラムポリシー)として定め、体系的で適切な教育課程を編成する。

- 1 博士後期課程における看護学の専門領域は、地域包括ケアの推進に資する看護実践に役立つモデルの開発研究を目指し、「実践開発看護学領域」とする。
- 2 教育課程は、研究の基盤的知識を養う「専門共通科目」、看護学特別研究につながる「専門科目」と「演習科目」、博士論文を完成させる「特別研究科目」の4つの科目群で構成する。
- 3 「専門科目」の特論、「演習科目」の特別演習の学修を体系的に履修するコースワークが、「特別研究科目」のリサーチワークに統合するように科目を配置する。
- 4 授業は、人と論理的・対話的に議論することで、組織内で政策提言ができるリーダー能力の育成を意図した展開方法とする。

③アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

◆博士前期課程

博士前期課程では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求める。

- 1 生命の尊厳を畏敬する深い人間愛と洞察力をもつ人
- 2 看護の課題を科学的に探究し、エビデンスを活用する専門性をもちリーダーシップの発揮を志す人
- 3 看護実践や教育・研究に対する真摯な構想力や想像力、実践力を高めようとする人
- 4 看護学の発展に寄与できるアイデンティティを形成し、知識基盤社会の発展を目指して真理の追究を志す人

◆博士後期課程

実践科学としての看護学に対する深い学識を持つ自立した研究者として、看護実践に役立つモデルを独創的に開発し、研究成果を地域に還元することで、地域の看護実践の向上と変革に貢献できる教育者又は看護実践の組織的指導者を育成する。これによって、地域の看護の質向上及び県民の健康と福祉に寄与する。

この教育目的を達成するために、以下の3項目を受け入れ方針とする。

- 1 専門領域の深い知識と看護研究の基本的能力をもち、看護実践の向上と変革に貢献する独創的な研究に取り組める「論理的思考力」と「柔軟な発想力と創造性」を有している人
- 2 地域の看護実践の向上と変革に使命感をもち、研究成果に基づく政策提言ができる組織的指導者を目指したい人
- 3 看護学の発展に貢献する意志をもち、看護学の研究を創造的に推進できる教育者を目指したい人

(7) 保健医療学研究科臨床検査学専攻の3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（修了の認定に関する方針）

◆博士前期課程

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で修士論文を作成し、本研究科が行う修士論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の修士学位を授与する。

- 1 国際専門誌の読解力を備え、全国学会でも研究を発表する能力があること。
- 2 研究テーマに自主性や独創性があり、研究仮説の立案から実証までのすべての過程の説明能力を有すること。

◆博士後期課程

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で、主論文（1編）を英文で作成し、査読制度のある国際又は全国学会誌に投稿、査読を経て単著又は共著筆頭の原著として発表する（印刷中の論文については、その旨記入し、アクセプトされたことが分かる証明書を添付する）。なお、主論文に関連する副論文（申請者が筆頭著者・共著者に入っている論文）の添付が望ましい。論文審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の博士学位を授与する。

- 1 臨床検査学領域における問題を発見し、解決に導く能力を有し、自ら研究仮説の立案、研究の遂行、仮説の実証ができること。
- 2 自らの研究について、社会への説明能力があり、国際又は全国学会誌に研究成果を発

表できること。

②カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

◆博士前期課程

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域で構成する。

専門共通科目 12 単位以上（先端医療学、保健医療福祉論、チーム医療特論の必修6単位、選択6単位以上）、専門領域科目8単位以上（選択した特別研究が属する領域科目から特論2単位及び演習2単位、さらに他の領域科目も含め4単位以上）、特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得する。

- 1 病態機能検査学領域では、神経系、循環器、呼吸器、腎機能など種々の生理機能検査や病理学的・細胞学的検査に基づく病態の解析法について、より専門性を深め、病態を解析・診断するための臨床検査学について学修する。
- 2 病因解析検査学領域では、病原微生物、生態防御に関わる免疫系、生体の代謝に重要な生化学的マーカー、遺伝子・染色体及びその関連物質等、病気を引き起こす要因について、より専門性を深め、病因を解析するための臨床検査学について学修する。
- 3 食品などの健康科学分野において、科学的な検証システムの構築などを通して人々の健康志向への対応や、社会医学分野における保健医療福祉に貢献できる方法について学修する。
- 4 膨大な量の検査情報を効率よく管理し、病態解析や病因解析に有効に利用するための検査情報管理法や検査部の管理運営法についても専門性を深め、検査部門における管理指導的役割について学修する。
- 5 特別研究は、研究課題となる専門領域科目の特論と演習における学修に連動した研究を遂行し、専門性を深く探究した修士論文を完成とする。

◆博士後期課程

保健医療学研究科の教育研究理念、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究の深化と発展を目指し、さらにこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。「専門共通科目」、「専門科目」と「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で構成し、「専門共通科目」は、1年次の前期に、臨床検査に関する幅広い研究テーマの研究課程における研究方法論を学修する1科目（「臨床検査学研究方法論」）を必修科目として、「専門科目」は、後期に高度医療専門職に必要とされる能力の獲得を目指し研究領域の教育研究について学修する4科目（「病原因子解析検査技術論」、「病理病態検査技術論」、「神経生理機能検査技術論」、「遺伝子検査技術論」）を選択科目として、それぞれ配置する。「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上の計4単位以上の修得とする。さらに個々の研究テーマについて独創的な視点から、研究仮説及び計画の立案、実験・解析・考察、仮説の立証を通して学位論文を完成させる、「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目6単位の必修科目として配置する。

- 1 「臨床検査学研究方法論」は、臨床検査に関する幅広い視野を有する教育者・研究者を育成するために、臨床検査に関する幅広い研究テーマに関する質の高い国際専門雑誌の英語論文抄読を行い、仮説の立案から仮説の科学的な検証に至るまでの研究課程における研究方法論について学修する。

- 2 「病原因子解析検査技術論」は、細菌感染症に対して抗菌薬を用いない全く新しい治療法の開発に繋げるための宿主 - 病原微生物相互作用研究やⅢ型分泌機構研究について学修する。
- 3 「病理病態検査技術論」は、消化器癌や乳癌等における癌の分子病理細胞診断に必要な技術と知識を深め、細胞接着因子の発現と上皮間葉転換による癌の浸潤、転移、悪性度に関する分子機構の解析について学修する。
- 4 「神経生理機能検査技術論」は、神経変性疾患における活性酸素の役割や天然化学物質の生体内情報伝達機構への影響とその作用機序について学修する。
- 5 「遺伝子検査技術論」は、遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識を更に深め、効率的な遺伝子検査の開発や遺伝子情報に関する情報リテラシーについて学修する。
- 6 「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、必修の3科目6単位とし、開講は通年、年、1年次はⅠ、2年次はⅡ、3年次はⅢを配置し、それぞれ研究過程並びに博士論文作成過程の進度別に明示した3段階の到達水準を達成して進む順序性を設定する。満たない場合は、学修期間は4年、5年と延長する研究指導体制とする。
- 7 専門的な研究を深化させるための「学術セミナー」を各年次に実施する。「学術セミナー」では、院生が特別研究や博士論文作成過程での課題を発表し、院生間並びに教員と院生間において相互に討論を重ね、多様な観点からの専門的な研究並びに学際的な観点からの研究の深化を図ることを目的とする。また、特色として、専門分野における豊かな学識を有する者を招聘しグローバルな視点から、教育・研究への動機づけが得られる教育研修を企画し、多様な観点から専門的な研究指導と学際的な研究指導が受けられる体制とする。

③アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

◆博士前期課程

臨床検査学専攻博士前期課程では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求める。

- 1 生命を尊重し、いたわりの心をもつ人
- 2 臨床検査に関する基本的な知識・技能・態度を有している人
- 3 臨床検査学の領域におけるさまざまな課題についてリサーチマインドを持って探求し、解決に努力する人
- 4 新たな臨床検査技術の開発に向けた研究を行いたい人

◆博士後期課程

臨床検査学専攻博士後期課程では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求める。

- 1 臨床検査学の高度な専門知識と科学的検証能力の獲得に強い意欲を有する人
- 2 臨床検査学領域における問題解決能力を備え、独創的な技術基盤の構築に向け強い意欲を有する人
- 3 基本的な英語力を更に高め、国際専門誌の読解力や投稿への強い意欲を有する人
- 4 臨床検査学領域における教育者・研究者を目指す人

(1) 保健医療学部

①看護学科

看護学科では、人の尊厳の擁護と科学的思考力を中核とする看護実践能力を身につけ、看護専門職として地域の人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する、自律性と創造性が発揮できる人材の育成を目指している。

＜基礎科目群＞は、人間の本质と生命の尊厳を学び、豊かな人間性と倫理観を醸成するとともに、課題を見出して学問的探求を行い、主体的に問題解決できるための基礎的能力を身につける科目群である。この科目群は、教育目的に示した『人の尊厳、科学的思考、人の健康と生活の基盤形成』を担うため、自然・人間・社会・情報・外国語・健康に区分し科目を配置する。

＜看護専門科目群＞は、『確かな看護実践能力を身につけ、看護専門職として地域の人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する』ために、看護学の専門的知識・技術を基礎から応用へと段階的に学修する科目群であり、以下に区分する。看護学実習は、看護実践能力が4年間で「基礎－応用－統合」と着実に獲得できるように配置、また1年次の「看護ゼミナールⅠ」で課題探求能力の基礎を作り、3年次「看護ゼミナールⅡ」、4年次「看護研究」へと課題探求能力の発揮につなげる。

授業科目

(令和7年4月1日現在)

基礎科目群	自 然	生物学、化学、物理学
	人 間	教育学、心理学、哲学、健康科学、健康スポーツ、障がい論、生命倫理
	社 会	社会学、法学、経済学、史学、文化人類学、医療倫理学、社会保障論
	情 報	情報リテラシー、看護情報学、看護統計
	外 国 語	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中国語Ⅰ・Ⅱ
	健 康	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、疾病と治療Ⅰ～Ⅴ、病理学概論、臨床薬理、臨床栄養、医療とME機器、臨床心理学、臨床検査ラボラトリー
看護専門科目群	看 護 学 総 論	看護学概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護教育、看護管理
	看護技術論・臨床推論	看護技術論Ⅰ～Ⅵ、総合看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、臨床推論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	看 護 過 程 論	看護過程論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
	健 康 レ ベ ル 別 看 護 論	プライマリーヘルスケア、慢性期ケア、急性期ケア、リハビリテーション看護、緩和・エンドオブライフケア、健康レベル別看護技術演習
	発達段階別看護論	成人看護学概論、老年看護学Ⅰ・Ⅱ、母性看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学Ⅰ・Ⅱ
	メンタルヘルス看護論	精神保健看護学Ⅰ・Ⅱ
	地域・在宅看護論	地域看護学Ⅰ・Ⅱ、離島看護学Ⅰ・Ⅱ、在宅看護学Ⅰ・Ⅱ、地域包括ケア論
	看 護 発 展 論	家族看護、がん看護、チーム医療、看護における代替療法、訪問看護論 看護政策論、災害看護、看護職のメンタルヘルス、地域保健論 リプロダクティブ・ヘルス、異文化看護
	看 護 学 実 習	看護学導入実習、看護技術論実習、看護過程論実習、在宅看護学実習 発達段階別看護論実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、メンタルヘルス看護論実習 健康レベル別看護論実習、看護学総合実習、地域健康サポーター実習
	看護ゼミナール・看護研究	看護研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護ゼミナールⅠ・Ⅱ、看護研究

②臨床検査学科

本学では、臨床検査学学修の効率化を目指して、基礎科目群から臨床検査専門科目群へと積み上がる科目構成とする。また、臨床検査に関連する領域の学修も含め、社会において幅広く活躍できる能力も培える科目配置とする。臨床検査の総合的な実践能力を修得するため、臨床検査学体験実習、基礎検査技術学演習をはじめ、多くの専門科目の実習や臨地実習を行っている。

また、医療の高度化・多様化に対応するため、先端医療技術学、臨床遺伝子検査学、生殖補助医療技術論など、幅広い高度な技術を学習するとともに、保健・医療・福祉の分野で活躍できる基礎的能力を習得するため、環境・食品検査学実習、健康食品学、食品衛生学、薬理学、地域チーム医療論、検診検査学、リスクマネジメントなどについても受講できる体制をとっている。

さらに、科学的思考力や課題解決能力を習得する目的で、教養講座・香川、専門ゼミナール、卒業研究を通じ、少人数によるゼミ形式の教育を入学から卒業に至るまで一貫して行っている。

授業科目

(令和7年4月1日現在)

基礎科目群	人文学	日本語表現法、哲学、史学、心理学、倫理学
	社会科学	法学、教育学、社会学、経済学、文化人類学
	自然科学	物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験
	外国語	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中国語Ⅰ・Ⅱ
	情報・健康科学	情報科学Ⅰ・Ⅱ・演習、健康科学、健康スポーツ
	総合科目	教養講座・香川
臨床検査専門科目群	専門基礎	解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、生化学Ⅰ・Ⅱ、生化学実習、生命科学概論、微生物学、病理病態学、検査機器概論、薬理学、公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、食品衛生学、環境・食品検査学実習、社会福祉学、瀬戸内圏環境論、国際保健論、組織論、地域チーム医療論、医療統計学Ⅰ・Ⅱ、人間工学、医用電子工学、医用電子工学演習、医療情報処理学
	分析検査学	臨床化学検査学、生体試料分析検査学、病態化学分析検査学 生体試料分析検査学実習、一般検査学、一般検査学実習、放射性同位元素学 分子生物学、分子生物学実習、臨床遺伝子検査学、臨床遺伝子検査学実習 生体防御検査学、高感度分析検査学、高感度分析検査学実習、 輸血・移植検査学、輸血・移植検査学演習、輸血・移植検査学実習
	形態検査学	微生物検査学、細菌検査学実習、ウイルス・真菌検査学実習、医動物検査学演習 病理病態学演習、病理検査学、病理検査学実習、血液検査学Ⅰ・Ⅱ 血液検査学実習、顕微鏡技術論、写真技術論
	検査情報解析検査学	生体画像情報検査学、生体制御機能検査学、生体機能検査学実習Ⅰ・Ⅱ 臨床医学Ⅰ・Ⅱ、病態生理機能検査学、病態代謝機能検査学、 検査精度保証管理学、検査分析システム学、検査情報解析学、 臨床検査管理運営学
	総合検査学	検査学概論、臨床検査学体験実習、基礎検査技術学演習、専門ゼミナール 臨床検査関係法規、先端医療技術学、医療安全管理学、検診検査学 生殖補助医療技術論、リスクマネジメント、遺伝子分析科学 健康食品学、健康食品学関係法規、卒業研究
	臨地実習	臨地実習前技能到達度評価、臨床検査総論臨床実習、病理組織細胞学臨床実習、 臨床生理検査学臨床実習、臨床化学検査学臨床実習、臨床血液検査学臨床実習、 臨床微生物検査学臨床実習、臨床免疫検査学・輸血移植免疫検査学臨床実習

(2) 保健医療学研究科

<看護学専攻博士前期課程>

○研究コース

博士前期課程では、エビデンスのある看護実践を創造する基本的研究能力を身に付け、専門性の高い看護実践能力を持ち、リーダーシップマネジメント力を発揮し、地域の保健医療活動や後輩育成に貢献できる人材を育成することを教育目的とし、専門領域は、基盤開発看護学、地域看護学、精神保健看護学、療養支援看護学、次世代育成看護学の5領域で構成し、実践看護の質の向上と変革をめざす。

授業科目（看護学専攻博士前期課程研究コース）

（令和7年4月1日現在）

専門共通科目			
	先端医学論※ 生命・医療倫理論※ 看護と哲学 地域包括ケア特論	チーム医療特論※ 英論文作成概論 質的研究方法論 看護政策特論	保健統計学特論 看護理論 量的研究方法論 看護教育学特論
専門領域科目			
基盤開発看護学領域	基盤看護学特論	基盤看護学演習	
地域看護学領域	公衆衛生看護学特論	公衆衛生看護学演習	
	在宅看護学特論	在宅看護学演習	
精神保健看護学領域	精神保健看護学特論	精神保健看護学演習	
療養支援看護学領域	臨床実践看護学特論	臨床実践看護学演習	
	老年看護学特論	老年看護学演習	
次世代育成看護学領域	ウィメンズヘルス看護学特論	ウィメンズヘルス看護学演習	
	小児看護学特論	小児看護学演習	
特別研究科目			
	看護学特別研究		

※は臨床検査学専攻と合同授業科目

○実践者養成コース

・公衆衛生看護学

公衆衛生看護学の学修が、基礎から応用および課題研究との統合に向けて、段階的に「基礎－応用－統合」へと積み上げ着実に科学的根拠に基づく高度な公衆衛生看護実践能力が獲得できるように科目配置する。

公衆衛生看護実践能力や研究力の育成、さらに公衆衛生看護実践力と研究力を統合した課題研究の取り組み、段階的「基礎－応用－統合」プロセスで進める。

授業科目（看護学専攻博士前期課程実践者養成コース 公衆衛生看護学）

（令和7年4月1日現在）

専門共通科目		
	研究コースと同科目	
専門領域科目		
地域看護学領域	公衆衛生看護学特論	公衆衛生看護学演習
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護技術論Ⅰ・Ⅱ
	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ
	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論演習 疫学
	保健統計学	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ
実践者養成コース共通	地域包括ケア実習Ⅰ・Ⅱ	
特別研究科目		
	課題研究Ⅰ・Ⅱ	

※は臨床検査学専攻と合同授業科目

・助産学

助産学では、責務遂行能力、助産実践能力、課題探求解決能力、連携・協働力、地域貢献力を修得できるように課題研究科目、専門共通科目、専門領域科目（実践コース共通科目を含む）に加えて、助産師国家試験受験資格取得に必要な科目を共通方針に基づいて配置する。

授業科目（看護学専攻博士前期課程実践者養成コース 助産学）

（令和7年4月1日現在）

専門共通科目	
	研究コースと同科目
専門領域科目	
次世代育成看護学領域	ウィメンズヘルス看護学特論 ウィメンズヘルス看護学演習
助産学	助産学概論 助産実践概論 周産期学・女性学特論
	新生児学・乳幼児学特論 助産実践特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
	助産実践演習Ⅰ・Ⅱ 地域母子保健活動論 助産管理
	助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
実践者養成コース共通	地域包括ケア実習Ⅰ・Ⅱ
特別研究科目	
	課題研究Ⅰ・Ⅱ

※は臨床検査学専攻と合同授業科目

＜看護学専攻博士後期課程＞

博士後期課程では、実践科学としての看護学に対する深い学識を持つ自律した研究者として、看護実践に役立つモデルを独創的に開発し、研究成果を地域に還元することで、地域の実践の向上と変革に貢献できる教育者又は看護実践の組織的指導者を育成する。

看護学の専門領域は、地域包括ケアの推進に資する看護実践に役立つモデルの開発研究を目指し、「実践開発看護学領域」とする。授業は、人と論理的・対話的に議論することで、組織内で政策提言ができるリーダー能力の育成を意図した展開方法とする。

授業科目（看護学専攻博士後期課程）

（令和7年4月1日現在）

専攻共通科目			
	看護理論学	看護学発展論	看護研究方法特論
	専門科目		演習科目
実践開発看護学領域	基盤看護科学特論	地域在宅看護科学特論	実践開発看護学特別演習
	精神保健看護科学特論、療養支援看護科学特論		
	次世代育成看護科学特論		
特別研究科目			
	看護学特別研究		

＜臨床検査学専攻博士前期課程＞

保健医療学研究科の教育目的、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査技師の役割と機能が拡大・多様化するなかで、高度先進医療への対応と新しい検査技術の開発、感染症や生活習慣病などの疾病予防と健康増進に貢献できる高度専門職業人としての臨床検査技師を育成するための方針に基づいてカリキュラムを編成する。

授業科目（臨床検査学専攻博士前期課程）

（令和7年4月1日現在）

専門共通科目			
	先端医学論※ 生命・医療倫理論※ 食理学	保健医療福祉論 検査総合管理学 検査研究方法論	チーム医療特論※ 医療情報管理学
専門領域科目			
病態機能検査学領域	生体機能検査学特論	生体機能検査学演習	病態解析検査学特論
	病態解析検査学演習	病理病態検査学特論	病理病態検査学演習
	血液病態検査学特論	血液病態検査学演習	神経生理機能検査学特論
	神経生理機能検査学演習		
病因解析検査学領域	病原因子検査学特論	病原因子検査学演習	生体防御検査学特論
	生体防御検査学演習	生体化学検査学特論	生体化学検査学演習
	遺伝子検査学特論	遺伝子検査学演習	
特別研究科目			
	臨床検査学特別研究		

※は看護学専攻と合同授業科目

＜臨床検査学専攻博士後期課程＞

保健医療学研究科の教育研究理念、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究の深化と発展を目指し、さらにこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するための方針に基づいてカリキュラムを編成する。

授業科目（臨床検査学専攻博士後期課程）

（令和7年4月1日現在）

専門共通科目	
	臨床検査学研究方法論
専門科目	
病態機能検査学領域	病態機能検査学技術論、神経生理機能検査技術論
病因解析検査学領域	病原因子解析検査技術論、遺伝子検査技術論
特別研究科目	
	臨床検査学特別研究Ⅰ、臨床検査学特別研究Ⅱ、臨床検査学特別研究Ⅲ

(4) 実習施設

【保健医療学部】

①看護学科（文部科学省承認施設）

（令和7年4月1日現在）

◎看護学導入実習・看護過程論実習・看護技術論実習

香川県立中央病院、高松赤十字病院、かがわ総合リハビリテーション病院、
高松訪問看護ステーション、訪問看護ステーションこくぶ、訪問看護ステーションQちゃん、
高松市保健センター、ぽっこ助産院、特別養護老人ホームエデンの丘（高松市）
丸亀市（丸亀市）、香川大学医学部附属病院（三木町）、宇多津町（宇多津町）、
多度津町（多度津町）

◎発達段階別看護論実習Ⅰ（母性看護学）

ぽっこ助産院、わはは・ひろば高松・香西、
特定非営利活動法人ゆうゆうクラブ（高松市）

◎発達段階別看護論実習Ⅱ（小児看護学）

香川県立中央病院、高松赤十字病院、かがわ総合リハビリテーション病院、
高松市立はらこども園、高松市立はやしこども園、高松市立屋島こども園、
高松市立川島こども園、高松市立田井こども園、高松市立牟礼保育所、
高松市立古高松保育所（高松市）香川大学医学部附属病院（三木町）

◎発達段階別看護論実習Ⅲ（老年看護学）

屋島総合病院、かがわ総合リハビリテーション病院（高松市）

◎メンタルヘルス看護論実習

香川県立丸亀病院、三船病院（丸亀市）、若竹会（坂出市）

◎在宅看護学実習

高松訪問看護ステーション、訪問看護ステーションこくぶ、訪問看護ステーションかけはし、
訪問看護ステーションQちゃん、訪問看護ステーションやしま、
訪問看護ステーションやすもり、ゆりかごナースセンター、
訪問看護ステーションあさぎ（高松市）、まるがめ訪問看護ステーション（丸亀市）、
訪問看護ステーションたきのみや（綾川町）

◎健康レベル別看護論実習

香川県立中央病院、高松赤十字病院（高松市）、香川大学医学部附属病院（三木町）

◎看護学総合実習

各領域において実施

②臨床検査学科

◎各臨地実習

香川県立中央病院、高松赤十字病院、高松市立みんなの病院、キナシ大林病院、
屋島総合病院（高松市）
回生病院（坂出市）、香川大学医学部附属病院（三木町）、滝宮総合病院（綾川町）

【大学院保健医療学研究科 看護学専攻博士前期課程 実践者養成コース】 (文部科学省承認施設)

＜公衆衛生看護学＞

◎公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ

高松市保健センター、高松市地域包括支援センター、高松市保健所（高松市）、
中讃保健福祉事務所（丸亀市）、西讃保健福祉事務所、観音寺市（観音寺市）、
東讃保健福祉事務所（さぬき市）、東かがわ市（東かがわ市）、多度津町（多度津町）

◎地域包括ケア実習Ⅰ・Ⅱ

高松市保健センター、高松市地域包括支援センター、高松市保健所（高松市）、
坂出市（坂出市）、さぬき市（さぬき市）、三豊市（三豊市）

＜助産学＞

◎助産学実習Ⅰ～Ⅴ

香川県立中央病院、高松赤十字病院、ぼっこ助産院（高松市）
四国こどもとおとなの医療センター（善通寺市）

◎地域包括ケア実習Ⅰ・Ⅱ

高松市保健センター、ぼっこ助産院（高松市）、
NPO 法人子育てネットくすくす（善通寺市）、小豆島中央病院（小豆島町）

(5) 令和7年度 学部・大学院 学年暦

前 期								行事
	日	月	火	水	木	金	土	
4			1	2	3	4	5	入学式4/4、新入生オリエンテーション 4/4～4/10、健康診断 4/9 新入生交流会 4/11 ワクチン接種説明会(1年生) 4/25 4限 内科検診(1年生) 4/30 GW 5/3～5/6 内科検診(2年生) 5/7 内科検診(3・4年生・院生) 5/14 大学院研究コース中間報告会5/14
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
5	27	28	29	30	1	2	3	大学院実践者養成コース 中間報告会 6/4
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
6	25	26	27	28	29	30	31	大学院実践者養成コース 中間報告会 6/4
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
7	22	23	24	25	26	27	28	大学院実践者養成コース 中間報告会 6/4
	29	30	1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
8	20	21	22	23	24	25	26	大学院実践者養成コース 中間報告会 6/4
	27	28	29	30	31	1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
9	17	18	19	20	21	22	23	大学院実践者養成コース 中間報告会 6/4
	24	25	26	27	28	29	30	
	31	1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
10	14	15	16	17	18	19	20	大学院実践者養成コース 中間報告会 6/4
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31	1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	

後 期								行事
	日	月	火	水	木	金	土	
10			1	2	3	4		臨床検査学専攻博士後期課程 学術セミナー 10/1 開学記念日 10/20 (休) 橄欖祭 11/1 看護学専攻博士後期課程 学術セミナー11/20ごろ
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
11	26	27	28	29	30	31	1	看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 1/7 看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 2/18 卒業式・修了式 進級判定結果揭示(1-3年生) 春季休業 3/1～3/31
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
12	23	24	25	26	27	28	29	看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 1/7 看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 2/18 卒業式・修了式 進級判定結果揭示(1-3年生) 春季休業 3/1～3/31
	30	1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
1	21	22	23	24	25	26	27	看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 1/7 看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 2/18 卒業式・修了式 進級判定結果揭示(1-3年生) 春季休業 3/1～3/31
	28	29	30	31	1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
2	18	19	20	21	22	23	24	看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 1/7 看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 2/18 卒業式・修了式 進級判定結果揭示(1-3年生) 春季休業 3/1～3/31
	25	26	27	28	29	30	31	
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
3	15	16	17	18	19	20	21	看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 1/7 看護学専攻実践者養成コース 修了判定結果揭示 2/18 卒業式・修了式 進級判定結果揭示(1-3年生) 春季休業 3/1～3/31
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

(凡例) : 土・日曜、休日 : 休業日

教職員の状況

(1) 役職員

(令和7年5月1日現在)

学 長	平川 栄一郎
副 学 長	片山 陽子
研 究 科 長	
学 生 部 長	
図 書 館 長	古山 達雄
看 護 学 科 長	吉本 知恵
臨床検査学科長	多田 達史
看護学専攻長	近藤 真紀子
臨床検査学専攻長	奥田 潤
事 務 局 長	藤澤 朝美
事 務 局 次 長	橋本 恵子



(速水史朗「人」1999年)

(2) 教職員数

(令和7年5月1日現在、単位：人)

区 分	学長・副学長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
学 長	1						1
副 学 長	1						1
保健医療学部	看 護 学 科	13	5	6 (1)	7 (1)	1	32(2)
	臨床検査学科	6	4	3	4		17
計 (教員)		2	19	9	10	1	51(2)

区 分	学長・副学長	教 授	准教授	講 師			計
保健医療学研究科	[2]	[17]	[9]	[8]			[36]

区 分	事務局長	事務局次長	副主幹	主任	主任主事 主 事	会計年度 任用職員	計
事 務 局	1	1	1	5 (2)	1	(8)	9(10)

合 計							60(12)
-----	--	--	--	--	--	--	--------

※保健医療学研究科の〔 〕内の人数は学部との兼務者であり、教授には学長及び副学長を含む。
() 内の人数は定数外職員。

(3) 教員の研究内容

【学長・副学長】

領 域	教 員	研 究 内 容
形態検査学	平川栄一郎	1. 癌の分子病理診断 2. 癌の浸潤と転移に関する分子機構の解析
在宅看護学	片山 陽子	1. Advance Care Planning (ACP) ・意思決定支援に関する研究 2. エンドオブライフケアに関する研究 3. 訪問看護に関する研究 4. 在宅看護学教育に関する研究

【保健医療学部】

①看護学科

領 域	教 員	研 究 内 容
基礎看護学	筒井 邦彦	1. 看護領域における超音波検査の有用性の研究 2. 死後の画像検査の研究
	小野 美穂	1. 病者のピアサポートに関する研究 2. 看護教育に関する研究 3. 慢性疾患患者のセルフマネジメントに関する研究
	呉 小玉	1. 中国残留邦人の健康と文化対応への支援に関する研究 2. 中医学の視点による情緒と疾病の関係性に関する研究 3. 中医学の健身気功による認知症予防の効果に関する研究 4. 伝統と現代医学の融合によるセルフケア技術に関する研究
	小林 秋恵	1. 包括的脳卒中予防の看護実践に関する研究 2. 看護職者の多職種連携協働能力に関する研究
	新井恵津子	1. リンパ浮腫患者の看護支援に関する研究 2. 糖尿病患者の周手術期看護支援に関する研究 3. 術後がん患者間の相互作用に関する研究
	重兼 望	1. 新人看護職員の教育支援に関する研究 2. 看護職におけるピアグループに関する研究
成人看護学	近藤真紀子	1. 病いと共に生きる患者とその家族への支援に関する研究 2. ハンセン病と医療倫理に関する研究 3. 幼い子供をもつがん患者とその家族への支援に関する研究 4. 看護師のグリーフケアに関する研究 5. 看護実践の理論化・概念化に関する研究
	岩本 真紀	1. がんサバイバーのストレングスに関する研究 2. がんサバイバーへの意思決定支援に関する研究
	森田公美子	1. がんとともに生きる人の QOL を維持する看護支援に関する研究 2. 乳がん体験者と家族への看護支援に関する研究 3. 外来・在宅でのがん看護のあり方に関する研究 4. がん看護に携わる看護師の看護実践能力の可視化に関する研究
	岡西 幸恵	1. がんサバイバーの調和に関する研究 2. 頭頸部がん患者への看護支援に関する研究 3. 成人看護学教育に関する研究
	中島 文香	1. がん患者の痛みの理解に関する看護研究 2. がん患者の全人的理解への看護支援に関する研究
	金 アンナ	1. 国際協力をする看護職者の経験と能力に関する研究 2. がんとともに生きる人へのエンド・オブ・ライフケアの研究

領 域	教 員	研 究 内 容
母性看護学・ 助産学	木戸久美子	1. 周産期の抑うつ（父親および母親）とその関連要因の研究 2. 在留外国人女性のリプロダクティブヘルスに関する研究 3. 育児支援に関する研究 4. マタニティケア領域におけるシミュレーション教育に関する研究
	植村 裕子	1. 母性看護学および助産学教育に関する研究 2. 女性の健康支援に関する研究 3. 外国人留学生の健康支援に関する研究
	松下有希子	1. 院内助産における助産ケアに関する研究 2. 助産師の職務満足に関する研究
	十河美智子	1. 助産師実践能力に関する研究
小児看護学	枝川千鶴子	1. 子どもと家族の健康管理および病気対処行動に関する研究 2. ハイリスク新生児と家族の看護に関する研究 3. 在宅移行期における子どもと家族の支援に関する研究
	松本 裕子	1. 先天代謝異常症の子どもとその家族に関する研究 2. 新生児マススクリーニングに関する研究 3. 小児看護学教育に関する研究 4. 子育て支援についての研究
老年看護学	吉本 知恵	1. 高齢者の病院からの移行を支援する看護に関する研究 2. 認知症高齢者の支援に関する研究 3. 老年看護学教育に関する研究
	竹内 千夏	1. 病院から在宅に移行する脳血管疾患患者への看護支援に関する研究 2. 認知症高齢者への支援に関する研究 3. 老年看護学教育に関する研究
	平井智重子	1. 高齢者の健康支援に関する研究 2. 老年看護学教育に関する研究
在宅看護学	岡田 麻里	1. 訪問看護師の地域看取りケアの振り返りに関する研究 2. 頸髄損傷者のセルフマネジメントに関する研究 3. 一人暮らし高齢者の居場所づくりに関する研究 4. 多職種連携のための継続看護マネジメントに関する研究
	和田 知世	1. 在宅緩和ケアに関する研究 2. 在宅多職種連携に関する研究 3. シミュレーション教育に関する研究
精神看護学	則包 和也	1. 精神疾患をもつ人への治療的な看護の研究 2. 認知行動療法を活用した看護の研究
	土岐 弘美	1. 認知症を抱える人や家族の支援に関する研究 2. 精神の病を抱える人や家族の支援に関する研究 3. 看護職者のメンタルヘルスの支援に関する研究
	多田羅光美	1. 精神に病いを持つ人への支援に関する研究 2. 精神科看護師の Quality of life や職務満足に関する研究 3. 看護職者への継続教育に関する研究

領 域	教 員	研 究 内 容
地域看護学・ 公衆衛生看護学	辻 よしみ	1. 保健医療サービスに関する研究 2. 保健師の人材育成に関する研究 3. 公衆衛生看護学教育に関する研究
	佐々木純子	1. 地域での専門職の連携についての研究 2. 在宅看護に関する研究 3. 訪問看護ステーションの管理運営に関する研究
	植原 千明	1. 保健師の地区活動に関する研究 2. 公衆衛生看護学教育に関する研究
	藤村保志花	1. 行政保健師の役割に関する研究 2. 児童虐待に関する研究
医学英語・ 応用社会科学	南 貴子	1. 海外における生殖補助医療を巡る法制度と家族についての研究 2. 安楽死を巡る法制度についての研究 3. 英語教育
情報・統計学	比江島欣慎	1. 臨床研究における evidence 導出に関する統計学・疫学の利用について ① カウンターファクチュアルモデルに基づくデータ分析手法の開発 ② 診療情報や保健情報の 2 次利用 ③ 深層学習の利用 ④ 医療従事者への統計ユーザー教育の方法と実践 2. 感染制御分野における統計学・疫学の活用法 3. 医療機関における患者安全と医療サービスの評価

②臨床検査学科

領 域	教 員	研 究 内 容
情報解析検査学	樋本 尚志	1. 肝疾患における自己抗体の臨床的意義 2. 肝疾患における糖・脂質代謝異常と微量元素との関連
	徳原 康哲	1. 先天性代謝異常症の病態・病因・検査法に関する研究 2. 次亜塩素酸ナトリウム五水和物を用いた新規臨床検査法の開発
	大栗 聖由	1. 脳波解析を用いた新たなバイオマーカーの開発 2. 横隔膜超音波検査を用いた呼吸筋に関する研究
	小河 佳織	1. 筋硬度を用いた新しい生体情報解析法の開発 2. 腹部超音波検査の描出法に関する研究
形態検査学	奥田 潤	1. 緑膿菌の未知の病原性発現機構解析 2. 緑膿菌の内因性血液感染機構解析と新規予防法の開発 3. III型分泌機構に着眼したエドワジエラ属細菌の病原性発現機構解析 4. 緑膿菌の新規抗菌薬耐性遺伝子や敗血症関連遺伝子の網羅的探索
	池亀 彰茂	1. 造血器腫瘍におけるフローサイトメトリーのマルチカラー解析 2. マクロファージによる NETs 貪食の Presepsin 産生に関する研究

領 域	教 員	研 究 内 容
形態検査学	末澤 千草	1. エドワジエラ属細菌の病原性に関する研究 2. 緑膿菌の病原性に関する研究 3. 緑膿菌の新規抗菌薬耐性遺伝子や敗血症関連遺伝子の網羅的探索
	森西 起也	1. 癌の分子病理診断 2. 大腸癌における核内受容体を対象とした研究
	近藤 明宏	1. プレセプシンの産生機序と臨床的有用性に関する研究 2. 血液細胞の機能および検査法に関する研究
分析検査学	多田 達史	1. 糖尿病と動脈硬化に関する臨床的研究 2. 自動分析装置の臨床に関する研究 3. 社会的ストレス関連マーカーの研究
	岡田 仁	1. ビリルビン光化学反応に関する研究 2. 早産児ビリルビン脳症の予防に関する研究 3. 小児血液がん疾患に関する臨床的研究
	宮川 朱美	1. 全身性強皮症診断法における免疫学的検査の有用性の研究 2. 透析患者の酸化ストレス度と抗酸化力の総合評価に関する研究
	太田 安彦	1. DPP- IV発現の機序に関する研究 2. 糖尿病患者における DPP- IV 活性値測定の自動化について
	青野 りよ	1. 病原細菌の免疫応答に関わる付着・定着因子の遺伝学的検討
解剖生理学	古山 達雄	1. 脈管形成における寿命関連遺伝子の関与 2. 神経新生における寿命関連遺伝子の関与
	新美 健太	1. 脈管系の発達過程に関する形態的研究 2. 内皮細胞におけるフォークヘッド転写因子の生理学的機能の検討 3. 中枢神経系の発達過程に関する形態的研究

(4) 教員の研究業績

(期間：令和6年4月～令和7年3月、単位：件)

区 分	学 術 論 文 等										学 会 発 表						主 催 学 会 等	講 演 等
	著 書 〔欧文〕	著 書 〔和文〕	原 著 〔欧文〕	原 著 〔和文〕	総 説 〔欧文〕	総 説 〔和文〕	研究報告 〔欧文〕	研究報告 〔和文〕	そ の 他 〔欧文〕	そ の 他 〔和文〕	国 際 学 会			国 内 学 会				
											特 別 講 演	シン ポ ジ ウ ム 等	一 般 演 題	特 別 講 演	シン ポ ジ ウ ム 等	一 般 演 題		
看護学科		3	5	9						8			4	1	9	45	8	49
臨床検査学科		1	6		1	2				1				1	2	28	4	4
合 計		4	11	9	1	2				9			4	2	11	73	12	53

(1) 入学者選抜試験及び入学者の状況

年度	学科・研究科		試験区分	募集人員 (人以内)	出願者数 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	倍率	入学者数(人)		
									県内	県外	計
令和7年度	保健医療学部	看護学科	推 薦	35	43(2)	43(2)	35(1)	1.2	35(1)	0	35(1)
			一般(前)	25	79(10)	71(9)	28(4)	2.5	12(1)	13(3)	25(4)
			一般(後)	10	155(12)	53(3)	11(1)	4.8	5(1)	5(0)	10(1)
			計	70	277(24)	167(14)	74(6)	2.3	52(3)	18(3)	70(6)
		臨床検査学 科	推 薦	10	17(2)	17(2)	3(0)	5.7	3(0)	0	3(0)
			一 般	10	58(10)	52(10)	20(4)	2.6	5(2)	14(2)	19(4)
			計	20	75(12)	69(12)	23(4)	3.0	8(2)	14(2)	22(4)
		合 計	推 薦	45	60(4)	60(4)	38(1)	1.6	38(1)	0	38(1)
			一 般	45	292(32)	176(22)	59(9)	3.0	22(4)	32(5)	54(9)
			計	90	352(36)	236(26)	97(10)	2.4	60(5)	32(5)	92(10)
	保健医療学研究科	看護学専攻 (博士前期課程)	一般選抜 社会人選抜	25	19 (0)	19 (0)	15 (0)	1.3	11 (0)	4 (0)	15 (0)
		研究コース	一般選抜 社会人選抜	5	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	1 (0)	1 (0)	2 (0)
		実践者養成コース (公衆衛生看護学)	一般選抜 社会人選抜	10	11 (0)	11 (0)	8 (0)	1.4	7 (0)	1 (0)	8 (0)
		実践者養成コース (助産学)	一般選抜 社会人選抜	10	6 (0)	6 (0)	5 (0)	1.2	3 (0)	2 (0)	5 (0)
		看護学専攻 (博士後期課程)	一般選抜 社会人選抜	2	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	1 (0)	1 (0)	2 (0)
		臨床検査学専攻 (博士前期課程)	一般選抜 社会人選抜	3	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	1 (1)	0	1 (1)
		臨床検査学専攻 (博士後期課程)	一般選抜 社会人選抜	2	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	1 (0)	0	1 (0)
令和6年度	保健医療学部	看護学科	推 薦	35	37(3)	37(3)	31(2)	1.2	31(2)	0	31(2)
			一般(前)	25	32(1)	32(1)	29(1)	1.1	12(0)	16(1)	28(1)
			一般(後)	10	72(0)	20(0)	11(0)	1.8	6(0)	5(0)	11(0)
			計	70	141(4)	89(4)	71(3)	1.3	49(2)	21(1)	70(3)
		臨床検査学 科	推 薦	10	18(2)	18(2)	6(1)	3.0	6(1)	0	6(1)
			一 般	10	17(3)	12(2)	12(2)	1.0	4(0)	8(2)	12(2)
			計	20	35(5)	30(4)	18(3)	1.7	10(1)	8(2)	18(3)
		合 計	推 薦	45	55(5)	55(5)	37(3)	1.5	37(3)	0	37(3)
			一 般	45	121(4)	64(3)	52(3)	1.2	22(0)	29(3)	51(3)
			計	90	176(9)	119(8)	89(6)	1.3	59(3)	29(3)	88(6)
	保健医療学研究科	看護学専攻 (博士前期課程)	一般選抜 社会人選抜	25	26 (1)	26 (1)	22 (1)	1.2	15 (1)	4 (0)	19 (1)
		研究コース	一般選抜 社会人選抜	5	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	2 (0)	0 (0)	2 (0)
		実践者養成コース (公衆衛生看護学)	一般選抜 社会人選抜	10	12 (1)	12 (1)	10 (1)	1.2	9 (1)	1 (0)	10 (1)
		実践者養成コース (助産学)	一般選抜 社会人選抜	10	12 (0)	12 (0)	10 (0)	1.2	4 (0)	3 (0)	7 (0)
		看護学専攻 (博士後期課程)	一般選抜 社会人選抜	2	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	1 (0)	0	1 (0)
		臨床検査学専攻 (博士前期課程)	一般選抜 社会人選抜	3	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	1 (0)	0	1 (0)
		臨床検査学専攻 (博士後期課程)	一般選抜 社会人選抜	2	0	0	0	0.0	0	0	0

※ () 内は男子学生(内数)。合格者数には追加合格者数を含む。

(2) 学部・大学院在学生の状況

① 学生定員及び在学生数

(令和7年5月1日現在)

区 分		修業 年限	入学定員	収容定員	学 生 数					
					区分	1年	2年	3年	4年	計
保健 医療 学部	看 護 学 科	4年	70人	280人	計	72人	75人	62人	70人	279人
					男	6人	6人	4人	5人	21人
					女	66人	69人	58人	65人	258人
	臨床検査学科	4年	20人	80人	計	22人	19人	19人	21人	81人
					男	4人	3人	4人	5人	16人
					女	18人	16人	15人	16人	65人
	合 計		90人	360人	計	94人	94人	81人	91人	360人
					男	10人	9人	8人	10人	37人
					女	84人	85人	73人	81人	323人
保健 医 療 学 研 究 科	看護学専攻 (博士前期課程)	2年	25人	50人	計	15人	20人			35人
	研究コース		5人	10人	男	0人	0人			0人
					女	2人	3人			5人
	実践者養成コース (公衆衛生看護学)		10人	20人	男	0人	1人			1人
					女	8人	9人			17人
	実践者養成コース (助産学)		10人	20人	女	5人	7人			12人
	看護学専攻 (博士後期課程)		3年	2人	6人	計	2人	1人	5人	
		男				0人	0人	0人		0人
		女				2人	1人	5人		8人
	臨床検査学専攻 (博士前期課程)	2年	3人	6人	計	1人	1人			2人
					男	1人	0人			1人
					女	0人	1人			1人
	臨床検査学専攻 (博士後期課程)	3年	2人	6人	計	1人	0人	1人		2人
					男	0人	0人	1人		1人
女					1人	0人	0人		1人	
合 計		32人	68人	計	19人	22人	6人		47人	
				男	1人	1人	1人		3人	
				女	18人	21人	5人		44人	

② 退学者の状況

学 科		令和5年度					令和6年度				
		1年次	2年次	3年次	4年次	計	1年次	2年次	3年次	4年次	計
学 部	看護学科	1人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	2人
	臨床検査学科	1人	0人	1人	0人	2人	1人	0人	0人	0人	1人
保健医療学研究科		0人	2人	0人		2人	0人	0人	0人		0人
計		2人	2人	1人	0人	5人	2人	1人	0人	0人	3人

③休学者の状況

学 科		令和5年度					令和6年度				
		1年次	2年次	3年次	4年次	計	1年次	2年次	3年次	4年次	計
学 部	看護学科	0人	1人	0人	0人	1人	8人	0人	0人	0人	8人
	臨床検査学科	1人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	1人
	保健医療学研究科	1人	1人	0人		2人	0人	0人	2人		2人
計		2人	2人	0人	0人	4人	8人	1人	2人	0人	11人

④修業年限期間に修了する大学院生の割合

【博士前期課程(標準修業年限2年)】

	令和4年入学者	令和5年度入学者
入学者数	16人	15人
修了者数	12人	14人
標準修業年限修了率	75.0%	93.3%

【博士後期課程(標準修業年限3年)】

	令和3年入学者	令和4年度入学者
入学者数	1人	2人
修了者数	0人	1人
標準修業年限修了率	0%	50.0%

⑤外国人留学生の状況

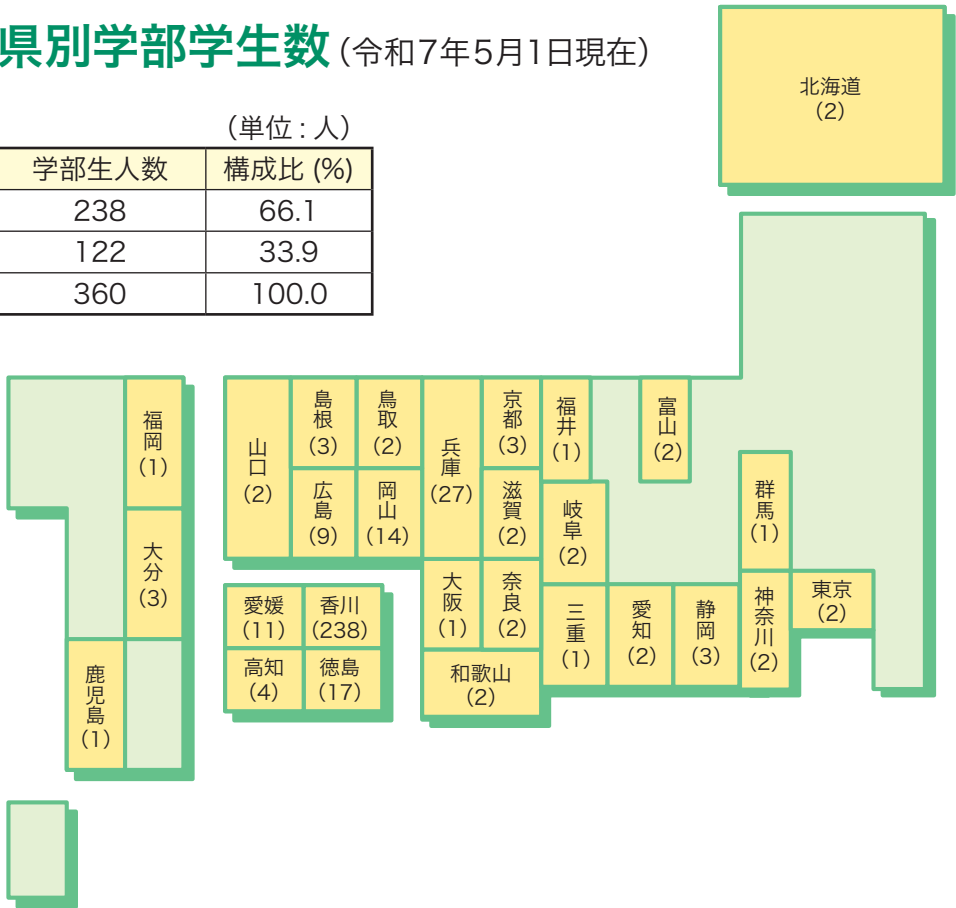
	令和6年入学者	令和7年度入学者
外国人留学生	0人	0人

※ここでいう「外国人留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定める「留学」の在留資格を有する学生を指す。

(3) 出身県別学部学生数 (令和7年5月1日現在)

(単位: 人)

区 分	学部生人数	構成比 (%)
県 内	238	66.1
県 外	122	33.9
計	360	100.0



(4) 令和7年3月卒業生・修了生の進路

学 科 等			看護学科		臨床検査学科		保健医療学研究科 (助産学) (公衆衛生看護学)					合計
職 種			看護師	その他	臨床検査技師	その他	看護師助産師	助産師	看護師	保健師	その他	
就 職	県 内	香川県、香川県立病院	7人				2人		1人			10人
		市町、市町立病院	1人		5人					1人		7人
		国、独立行政法人	1人					2人				3人
		大学附属病院	10人				1人					11人
		高松赤十字病院	9人				3人					12人
		その他の病院、施設	6人	1人	2人	1人		1人	1人			12人
		小 計	34人	1人	7人	1人	6人	3人	2人	1人		55人
	県 外	都道府県、都道府県立病院 地方独立行政法人	5人		2人							7人
		市町村、市町村立病院 地方独立行政法人	11人		1人							12人
		国、独立行政法人										
		大学附属病院	4人		1人							5人
		日本赤十字社関連施設			1人							1人
		その他の病院、施設等	1人		3人						1人	5人
		小 計	21人		8人						1人	30人
	計		55人	1人	15人	1人	6人	3人	2人	1人	1人	85人
現 職 継 続											7人	7人
進 学			11人		1人							12人
そ の 他												
合 計			67人		17人		9人		3人		8人	104人

(5) 国家試験の合格状況

区 分	令和5年度			令和6年度		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
看 護 師	70人	70人	100.0%	67人	67人	100.0%
保 健 師	1人	1人	100.0%	3人	3人	100.0%
助 産 師	9人	9人	100.0%	9人	9人	100.0%
臨 床 検 査 技 師	19人	19人	100.0%	17人	17人	100.0%

(6) 奨学生の状況

日本学生支援機構奨学生状況

		令和5年度					令和6年度				
		貸与				給付	貸与				給付
		一種	二種	併用	計		一種	二種	併用	計	
看護学科	1年	10人	4人	1人	15人	9人	11人	3人	4人	18人	12人
	2年	10人	10人	5人	25人	11人	9人	3人	1人	13人	7人
	3年	16人	6人	1人	23人	15人	10人	10人	5人	25人	10人
	4年	7人	3人	3人	13人	12人	14人	5人	1人	20人	16人
臨床検査学科	1年	2人	4人	0人	6人	3人	2人	4人	0人	6人	3人
	2年	4人	1人	1人	6人	5人	1人	4人	0人	5人	4人
	3年	3人	1人	0人	4人	5人	2人	1人	1人	4人	4人
	4年	3人	1人	1人	5人	6人	3人	1人	0人	4人	5人
保健医療学研究科	1年	3人	0人	0人	3人		4人	0人	0人	4人	
	2年	3人	1人	1人	5人		3人	0人	0人	3人	
	3年	0人	0人	0人	0人		0人	0人	0人	0人	
計		61人	31人	13人	105人	66人	59人	31人	12人	102人	61人

(7) 学生相談

学生相談室利用状況

施設の名称：学生相談室

開室時間：予約制

スタッフ：臨床心理士 1名（非常勤）、学内相談員 4名（教職員兼務）

年間相談延件数：令和5年度 19件 令和6年度 33件

(8) 課外活動

① サークル活動（令和7年3月現在）

・学生団体名

バレーボールサークル、バドミントンサークル、茶道サークル、軽音楽サークル、写真サークル、フットサルサークル、吹奏楽サークル、図書サークル（ビブリア）、香川県青年赤十字奉仕団サークル、バスケットボールサークル、アウトドアサークル、The ☆ダンスサークル、テニスサークル、マンガ研究会、陸上競技部

・団体数計 15 団体

・サークル登録延人数 203 人

・後援会補助金額（予定） 800,000 円

② その他

令和6年度においては、新入生交流会と大学祭を開催した。

図書館の状況

(1) 運営状況

- 開館時間：通 常……9時～21時30分
土曜日……9時15分～13時
長期休業期間中など……9時～17時
短縮開館時……9時～19時
- 休 館 日：日曜、長期休業期間中の土曜日、祝日、資料整理日、
開学記念日（10月20日）、年末年始
- 閲覧室の面積：475㎡
- 座 席 数：閲覧席84席、視聴覚ブース6席
- 収納可能冊数：開 架 4万冊
書 庫 6万冊

(2) 図書館資料の整備状況

（令和6年度末現在）

区 分	図 書（冊）				雑 誌（種）			視聴覚資料 （点）
	和 書	洋 書	小 計	蔵書 合計	購入 和雑誌	購入 洋雑誌	オンライン ジャーナル	
受入数	1,240	1	1,241	82,241	67	0	0	845

(3) 利用状況（令和6年度）

開館日数：269日

貸出冊数				貸出人数			
学 生	教職員	学外者	合 計	学 生	教職員	学外者	合 計
5,128冊	1,225冊	497冊	6,850冊	2,527人	544人	294人	3,365人

相互利用		参考調査
依 頼	受 付	
215件	0件	271件

(1) 地域連携推進センター事業

【地域住民交流事業】

健康サポーター養成講座

- 日時 令和6年8月～11月
- 場所 保健医療大学
- 内容 講義「ボランティア活動の心構え」
健康課題をテーマにした企画・ポスター作成、発表
健康測定等フィールド活動

【専門職支援事業】

①かがわメンタルヘルス研究会

- 日時 令和6年10月23日(水)ほか
- 内容 精神保健医療福祉に関する研修会
テーマ「「お金」～Aさんの事例を通じて～」ほか

②地域子育て支援研究会

- 日時 令和6年6月7日(金)ほか
- 場所 高松市はらこども園子育て支援センター「にこにこキッズセンター」
- 内容 ミニ講座、子育て健康相談

③在宅ケア学びあい塾

- 日時 令和6年5月20日(月)ほか
- 内容 セミナー（Web開催）
テーマ「一生涯がいを支える訪問看護ー」ほか

④Living in Japan Kagawa研究会

- 日時 令和6年7月18日(木)ほか
- 内容 やさしい日本語講座、健康相談等

⑤Sim Club Kagawa

- 日時 令和6年5月20日(月)ほか
- 内容 模擬患者養成講座

⑥香川多胎支援研究会

- 日時 令和6年9月24日(火)ほか
- 内容 妊娠期から育児期の多胎児家族の支援についての情報交換、多胎教室の視察

(2) 公開講座 ～ テーマ『健やかに生きよう』～

【第1回】 令和6年8月20日(火)

香川県立保健医療大学大講義室

講座内容	講師	参加者数
あなたの情報利用は大丈夫ですか？	教授 比江島 欣愼	49人
血液型よもやま話	准教授 宮川 朱美	

【第2回】 令和6年11月21日(木)

香川県庁12階第1会議室

講座内容	講師	参加者数
乳幼児のからだの特徴を知って育児に活かそう！	教授 枝川 千鶴子	19人
リポタンパク質を知ろう！ほんとは知りたいそことこ —なにが悪玉？ なにが善玉？—	教授 多田 達史	

(3) 施設開放

①見学受け入れ

	小学校	中学校	高等学校	計
令和5年度	0件	0件	3件	3件
令和6年度	0件	0件	2件	2件

②施設貸出

	テニスコート	グラウンド	大講義室	一般講義室	体育館
令和5年度	0件	96件	3件	7件	0件
令和6年度	0件	88件	3件	10件	1件

③図書館学外者利用

	入館者数	貸出者数	貸出冊数
令和5年度	272人	140人	248冊
令和6年度	490人	294人	497冊

(4) オープンキャンパス

- 日 時 令和6年7月28日(日)12:30～16:30
- 場 所 大講義室、各実習室ほか
- 参加人数 523人

《ミニオープンキャンパス》

- 日 時 令和6年11月2日(土)10:00～12:00
- 場 所 206講義室
- 参加人数 20人

(5) 高校等への出張講座 (令和6年度) (延べ人数)

高校等へ出向いた本学教員数 看護学科26人 臨床検査学科20人

(6) 委員等への就任及び講師等の派遣 (令和6年度) (延べ人数・回数)

	看護学科	臨床検査 学科	学長・ 副学長	計
国・県・市町の審議会及び関係諸 団体の委員・役員等への就任	34	8	8	50
講演・研修の講師等の派遣	59	9	13	81

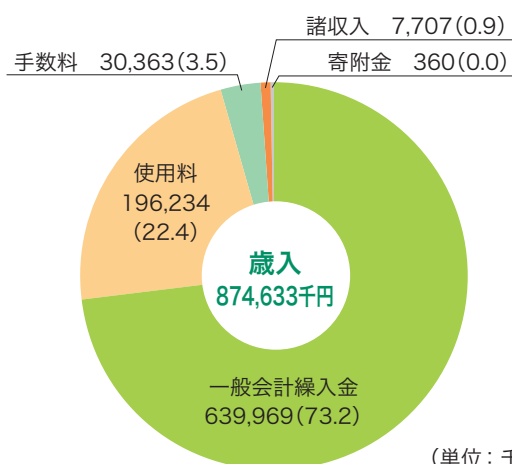
財務状況

(1) 令和7年度 歳入歳出予算

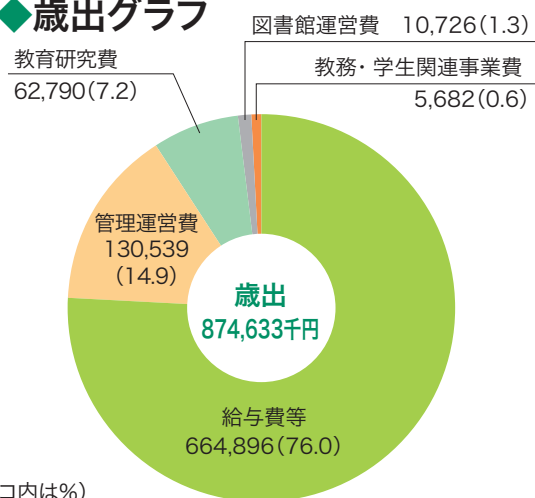
歳入	科目等		金額
	使用料	授業料等	196,234千円
	手数料	入学選考料、入学金等	30,363千円
	寄附金		360千円
	諸収入		7,707千円
	一般会計繰入金		639,969千円
歳入合計			874,633千円

歳出	科目等		金額
	給与費等		664,896千円
	管理運営費		130,539千円
	教育研究費		62,790千円
	図書館運営費		10,726千円
	教務・学生関連事業費		5,682千円
歳出合計			874,633千円

◆歳入グラフ



◆歳出グラフ



(単位：千円、カッコ内は%)

(2) 外部資金の受け入れ状況

区分	令和6年度			
	新規申請	採 択		金額
		新規	継続	
科学研究費助成事業	22件	8件	21件	22,347千円
厚生労働科学研究費補助事業			0件	0千円
国立研究開発法人科学技術振興機構からの受託研究			0件	0千円
奨学寄附金			3件	1,500千円
受託研究			0件	0千円
学外共同研究			1件	330千円

10 施設の状況

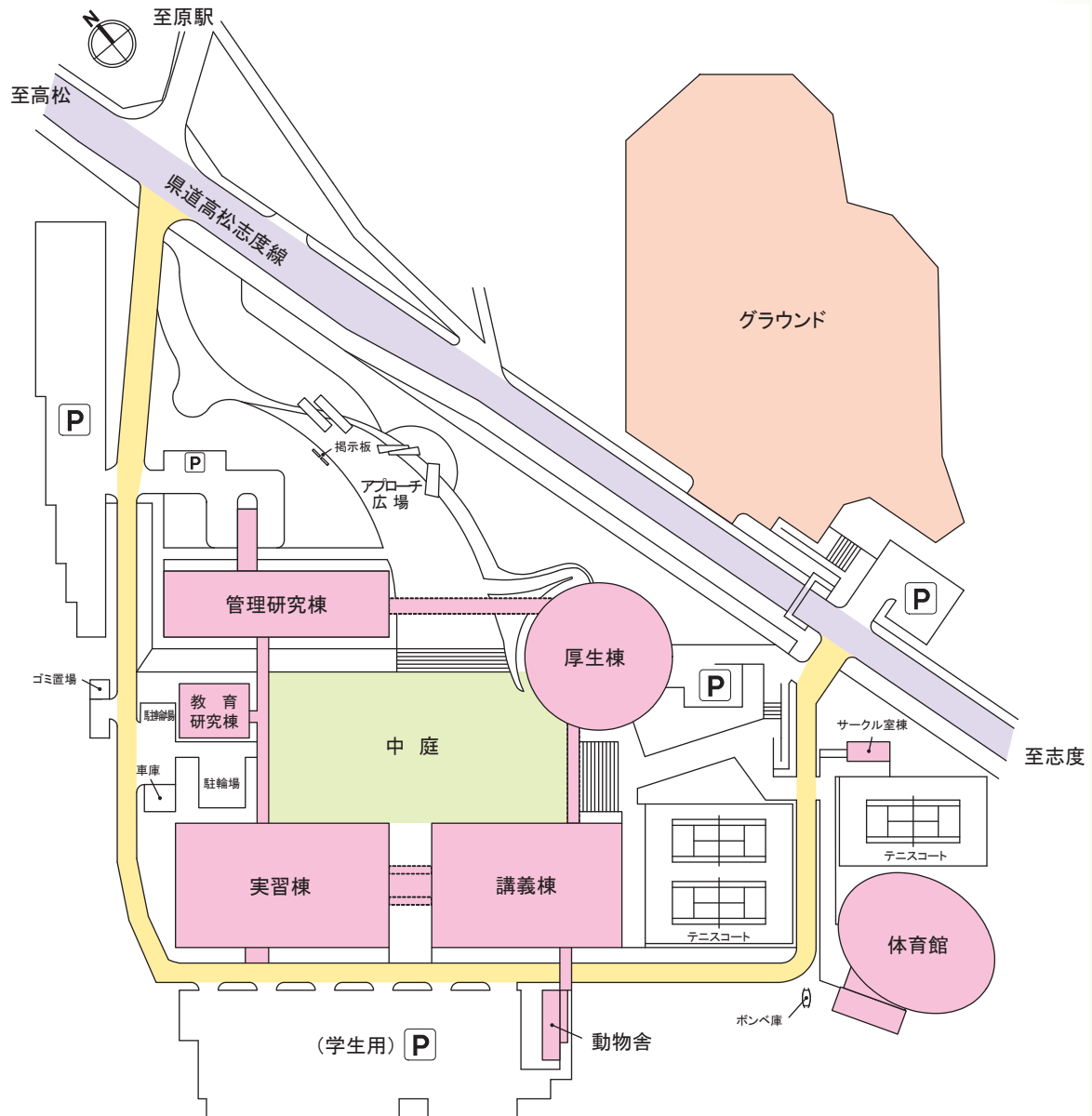
(1) 敷地面積

50,750.56m²（校舎敷地 38,173.56m²、運動場用地 12,577m²）

(2) 建 物

区 分		用 途	面 積
管理研究棟		学長室、副学長室、研究室、事務室、会議室、講師控室、保健室、進路・学生相談室、応接室等	2,653.50m ²
教育研究棟		講義室、教材作成印刷室、大学院生研究室等	243.90m ²
講義棟	1・2階	講義室、情報処理教室等	4,718.55m ²
	3階	大講義室、臨床検査学科研究室等（実習室、準備室、顕微鏡観察室等）	
実習棟	1・2階	看護学科研究室等（実習室、準備室、展示室等）、学生更衣室	5,005.20m ²
	3階	臨床検査学科研究室等（実習室、準備室、標本室等） 大学院生研究室	
厚生棟		図書館、学生ホール・食堂、サークル室、音楽室、和室等	1,982.15m ²
体育館		アリーナ、ステージ、シャワー室、更衣室、器具庫等	1,168.05m ²
動物舎		飼育室、実験室等	99.40m ²
サークル室棟		サークル室、倉庫等	62.24m ²
車庫			54.42m ²
駐輪場			100.78m ²
ゴミ置場			26.71m ²
ガスボンベ庫			5.83m ²
計			16,120.73m ²

(3) 建物配置図





KAGAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原 281-1

Tel:087-870-1212 Fax:087-870-1202

E-mail: hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp

ホームページ: <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>